

平成28年3月10日

足立区立鹿浜第一小学校
学校長 石田 好広 様

足立区立鹿浜第一小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 小宮 功

平成27年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

前年度の重点的な取組み事項の成果と課題を詳細に分析し、平成27年度の学校経営計画において、3項目を重点的な取組み事項に設定した。

重点的な取組み事項には、それぞれに成果目標、達成基準、達成に向けた具体的な取組みを設け、実施結果と課題を自己評価書としてまとめている。

開かれた学校づくり協議会では、自己評価書や授業参観時の状況を基に重点的な取組み事項の成果と課題について検証した。検証結果については項目毎に下記に記載した。

今年度、鹿浜第一小学校は創立50周年の記念の年を迎え、10月3日に創立50周年の式典が盛大に挙行された。式典当日、子供たちが企画した「創立50周年記念フェスティバル」が行われ、来校した方々を温かく迎え、楽しませてくれました。また、式典では6年生が元気いっぱい鹿浜第一小学校の歩みと決意を発表しました。

人を思いやる心や元気に挨拶する姿勢は、学校や家庭が日頃から取り組んでいる成果として大いに評価したい。

また、学習面においては、どのクラスも落ち着いた態度で授業に臨んでいると感じた。「足立区基礎学力定着に関する総合調査」においても課題を明確にした取組みが成果として表れている。

今後も課題を詳細に分析し、重点的な取組み事項を設け更なる成果を期待したい。

平成27年度の重点的な取組み事項

学力の向上
幼保小中の連携
心の教育の推進

重点的な取組み事項－1 学力の向上

成果目標 4月の区学力調査の通過率をアップする。
達成基準 75%

目標実現に向けた取組み

(1) パワーアップタイムの充実

具体的な方策

学力調査分析を基に学年全体の課題となる内容を吟味し、段階的に定着を図っていく。

実施結果

学力調査の分析を詳細に行い、パワーアップタイムの指導に活かすことができた。

(2) 放課後補充指導・補修指導の充実

具体的な方策

①「東京ベーシックドリル」「習熟度プリント」などを教材に活用する。

②全校体制指導に取り組む。

実施結果

①どの学年も年間100回以上実施。

②補充・補習以外に宿題忘れの児童の学習の機会としても活用した。

「東京ベーシックドリル」は繰り返して取り組むことで基礎的学力の定着が図れる教材であ

る。高学年の基礎学力定着度合も把握することができるため、定着してない部分のフォローアップを的確に行うことができる。また、保護者も家庭学習に用いて基礎的学力の定着度合を把握する必要があると思われる。

(3) プレジデントタイムの充実

具体的な方策

毎日、給食準備中に校長が指導

実施結果

校長のほか副校長、学力定着推進委員が加わり、ほぼ毎日実施された。

【重点的な取組事項－1の実施結果】

学力調査の分析を詳細に行い、目標達成に向けた取組みを効果的に実施した結果、達成基準を8.3%上回ることができた。

つまずきのある児童の指導には時間を要する。特に算数は、積み上げの教科と言われるように、低学年のつまずきが高学年の学習に影響するため、継続した学力調査の分析と教員に負担の少ない合理的な指導体制の構築が求められる。

実施した様々な取組みについては、効果をより確実なものにするため、今後も継続が必要である。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

成果目標 連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。

達成基準 1月の調査で100%の教員から連携事業への肯定的な回答を得る。

目標実現に向けた取組み

(1) 中学校教員との連携

達成基準

①小中交流会、準備委員会を各10回実施

②校長間の連絡を密にする。月1回

具体的な方策

①連携授業10回。各教科の研究授業実施、各校1回ずつ。

②月1回の顔合わせ。

実施結果

具体的な方策については計画どおり実施し、基準を達成した。

小中の連携は、一人一人の子供たちの行動や指導などの情報を教員同士が把握し共有することで「中1ギャップ」の解消を目指す取組みの一つである。今後も継目のない指導法の研究を継続してもらいたい。

また、小中連携を深化させ、可能であればそれぞれの教員の役割を分業化するなどして義務教育の9年間を見据えた指導・教育を図ってもらいたい。

(2) 保育士や学童指導員との交流

達成基準

①全教員による保育園見学会の実施

②年間3回以上の保育園児と低学年の交流事業

具体的な方策

①全教員による見学会実施

②授業体験、公開授業、図書館見学、給食体験、展覧会等への招待

③1年生担任による谷在家保育園での鉛筆の持ち方指導。校長の保護者説明会参加

実施結果

具体的な方策については計画どおり実施し、基準を達成した。

園児たちとの積極的な触れ合いや保育士、学童指導員との情報共有は、「遊び」から「学び」へのスムーズな導入を図り、「小1プロブレム」を解消する手段として今後も継続した取組みをお願いしたい。

(3) 教員と児童、生徒との交流

達成基準

- ①出前授業：3回以上
- ②夏季補充教室：10日間
- ③部活動、授業体験：1回
- ④中学校説明会：1回
- ⑤あいさつ運動実施

具体的な方策

- ①出前授業：算数、体育、図工等
- ②夏季補充教室：指名補習
- ③部活動、授業体験：学年末考査中
- ④中学校説明会：生徒会が来校
- ⑤中学生とのあいさつ運動の実施

実施結果

計画通り実施することができた。

教員と児童・生徒との交流をとおして中学校生活への期待や意欲を高め、不安の軽減に有効と思われる。今後も継続して実施してもらいたい。

【重点的な取組事項－2の実施結果】

幼保小中連携は学力のためだけではなく、義務教育が終了するまでは、地域の子供は地域で育てるという取組みでもある。

この地域は、子供会や町会・自治会の活動が盛んで、学校側も地域と手を携えて子供を守り、育てる取組みの中に幼保小中の連携を位置づけている。

また、教員、保育士、学童指導員との交流が、テリトリーを超えた新たな研鑽の場となり、児童、生徒にフィードバックされることを期待したい。

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

成果目標 自他を尊重する気持ちと態度の育成

達成基準 児童アンケート結果の向上 自己肯定感に関する項目 85%以上

目標実現に向けた取組み

(1) 丁寧な言葉遣い、気持ちのよい挨拶の推進

達成基準

- ①児童アンケートであいさつ・言葉遣いに関する項目 80%以上
- ②学校関係者評価で、あいさつ言葉遣いに関する項目 3%向上

具体的な方策

- ①あいさつキャンペーンを通年実施する。
- ②学校便り、保護者会、ホームページで保護者、地域に啓発活動を行う。
- ③PTA、地域と連携したあいさつ運動の実施

実施結果

- ①あいさつ 80.8% 言葉遣い 70.3%

気持ちのよい挨拶によって活気のある充実した1日のスタートがきれ、児童の体調も把握できる良い取組みである。

PTA、地域と連携してあいさつ運動を行ったが、児童アンケート結果では、あいさつについては基準を達成したが、言葉遣いについては基準を達成できなかった。

50周年記念式典で来賓の方々に元気よくあいさつする姿や、町ですれ違った時に立ち止まってお辞儀をしながら挨拶する児童を見かける頻度が増えたと感じるので着実に成果は上がっていると感じる。

言葉遣いに関してはもう一息である。家庭でのより一層の協力が不可避である。

丁寧な言葉遣いは、良好な人間関係の構築に繋がり、心の教育を推進するうえで大切な取組みである。

(2) 交流活動の充実

達成基準

- ①なかよし学級と普通学級の交流活動を実施する。
- ②高野小特別支援学級と交流活動を年2回実施する。

具体的な方策

- ①なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を行う。
- ②高野小学校と連携し、スポーツ、歌、ゲーム活動の交流を行う。

実施結果

なかよし学級と普通学級で授業や行事で交流を図った。また、高野小学校との交流は計画的に実施することができた。

(3) 伝統文化を大切にす活動の推進

達成基準

- ①俳句コンクールに投稿
- ②校内俳句コンクールを年2回実施

具体的な方策

- ①一茶祭りなどの俳句コンクールに積極的に投稿する。
- ②各学級で計画的に句会を実施する。

実施結果

子供新聞に児童の俳句が掲載され、また、俳句コンクールではPTA会長賞を設立するなど活動を推進する原動力になっている。

俳句は作文などと違って、17音で感情や情緒を表現する瞬発力が要求される。表現力や自然への関心を高め、感情や情緒を育むには有効であり、今後も継続して取り組んでもらいたい。

(4) 地域や社会とのつながりや環境を大切にす活動の推進

達成基準

- ①各学年において環境教育を実施（各1回以上）
- ②児童会等で環境活動を実施（1回以上）
- ③地域や社会に貢献する活動実施（3回）

具体的な方策

- ①各学年における環境教育に関する学習内容を明らかにして、意識的に環境教育を実施する。

- ②代表委員会、環境委員会等での環境活動を実施する。

- ③社会貢献活動を実施する。

実施結果

各学年における環境教育と児童会等での環境活動は実施することができた。

学校・家庭・地域のボランティアとの連携で行われている「野菜くずリサイクル活動」は継続して行われており、本校の特色となっている。

前年度参加したユニクロが行っている着なくなった子供服を難民の方々に届けるリサイクル運動「服のチカラプロジェクト」に今年度は参加できなかった。国際問題や環境問題に関心を持つ機会を得られることから継続してもらいたい。

【重点的な取組事項－3の実施結果】

「心の教育の推進」の取組みは以前から継続して行われており、一朝一夕には達成できない状況であるが、元気なあいさつや落ち着いた授業態度など見るにつけ、教育成果は着実に上がっていると感じる。

言葉遣いは、高学年になるに従い、乱暴な言葉を使う児童が増える傾向にあり、PTAや家庭、地域と連携しながら目標達成に向けた効果的な取組みを考えなければならない。

また、地域には伝統・文化を継承する団体が数多く存在する。これらの団体と連携することで心の教育の推進が図れないか、検討をお願いしたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

現状と課題に対し、詳細な検討を加え3項目の重点的な取組事項を定め、教員が一丸となって課題の克服に努めた。取り組んだ成果は着実に結果に反映されており、高く評価したい。

課題は山積しており、克服するには相当の時間を必要とすることを再認識して学校、家庭、PTA、開かれた学校づくり協議会、地域等との連携を一層深め、課題の克服に努めなければならない。